

## はじめは

運動会の提案が出された時のことだった。例年、開会式で各学級の子どもたちが運動場に集合する際に、男女交互に一行（男は男の列、女は女の列）になり、入場してくるのだが、この並び方が、男女差別につながるというのである。生活の中で、知らず知らずのうちに、「男は先、女は後。」という意識が植え付けられているという問題提起があった。その場は、特に反対する意見もなく、男女男女・・・と並ぶのではなく、男女関係のない背の順で並ぶことに決まった。

これが、本校での、男女混合名簿の論争の始まりだが、学年末の総括会議には、学校で男女混合名簿の取り組みを進めようという提案が、資料とともに出された。その資料では、1979年採択の女性差別撤廃条約を引用し、性に基づく「区別は差別」という主張から、男女混合名簿を足がかりに、共生教育を押し進めようという提案である。「(資料から)・・・一男と女を分けること一ごく日常的に行われている区別に、疑問を持つ人はどれくらいいるだろう。女と男はちがうから別にしなければならないと自分の中では当然のこととして納得してしまうことだが、何のために分けるのかと問うてみたら、具体的に合理的な理由のあることは、ほとんどない。反問してみると、ほとんど区別する必要のないことであることがわかる。・・・区別をやめたら差別もほとんどが解消する。・・・」そして、日常に行われている区別の例を挙げている。(出席簿、体操服、上靴の色、ロッカー、トイレ、更衣室、呼び方、等多岐に渡って実例が出されている。)これらの区別を解消するための方法として、出来るところから変えていく、つまり、男女別名簿から男女混合名簿に変えようという提案が出されたのである。

## 反論

総括会議では、それを支持する意見が大半を占めた。しかし、一方で、反論も出された。その内容は、以下のようなものになる。

□男女別に名簿を分けることで、果たして性差別が起こっているのだろうか。男女に分けると言うのは、機能面を追求した上での一つのわけ方であって、背の順、スポーツにおける体重別などと同等的なものであると考えられる。背の順は見やすい、男女別は分かりやすいという機能性があり、そこから性差別が起こっているとは考えられない。性差別は、次元の違う問題である。

□学級写真で男女分かれて写真を撮るのは、一つの機能美であって、同じ制服を着ている者が、並ぶと美しいと感じるからである。(朝礼で、まっすぐに並ばせることと同じである。)

□仮に、男女別に分けることによって、不合理が起こるとしても、それを全て同じようになべてしまう、混合にしてしまうのはどうだろう。いつも男が先なら、女が先にすればいい。それは、教師が常に意識すればいいことである。現に、女子が先の名簿にしている学校だってある。混合にしてしまうというのは、かえって、性差別がわからないようになるのではないか。

□男女混合名簿がおかしいと言っているのではない。多様なやり方があると思うのだ。それを、男女別名簿は差別であり、混合名簿が正しいという一面的な捉え方がおかしいのだ。

□男女混合名簿の取り組みを推進している学校での、疑問を持つような実践を耳にする。体重測定を一緒にさせたり、修学旅行では、男女一緒に寝させる。これが男女混合名簿の辿り着く先であれば、子どもの人権を無視した男女共生教育の強制でしかない。ちがいをちがいとして認めていくという立場はどうなるのだろうか。

この反論を受けて、幾つかの意見のやりとりが、総括会議ではあった。「めざす方向は、同じなのだから・・・。」という司会者の無難なまとめ方で、その場は終わったが、私は、両者の根本的な主張のちがいを、感じたのであった。

## 体育実践に引き戻すと

要は、男女混合名簿が大事なのではなくて、男女平等教育、男女共生教育が大切なことであると思う。共生教育の中身を問わなければならないということだ。例えば、小学校で、サッカーを行ったとする。男女混合チームを作って、ゲームをさせると、負けた原因を、うまくない子や女子のせいにする場面に出くわす。「女は弱いから～。」「女のやつらのせいで～。」というあからさまな子どもの発言がある。ここには、女性は弱い者、男についていけない者という差別意識がある。このような問題を積極的に取り上げ、男女共生を考えていく中身として、子どもたちに提示していかなければならない。男女差を個人差として捉える視点は、体育の実践には欠かせないだろう。こう考えていくと、中高の体育の授業も今後は、共習する方向に動くべきではないだろうか。

男女混合名簿は、平等教育、共生教育を考えていく上での一つの起爆剤にはなるが、性差別の実体が、男女別名簿によって起こるものなのかははっきりしない限り、形式の問題に終わってしまうのではないだろうか。大切なのは、中身であり、男女混合名簿自体はそう大事なことはない。むしろ、男女混合名簿しか認められない立場の方が脅威に思えてくるのである。

男女別と言うのは、教育という枠組みの中では、やはり、共生の方向を目指すべきであるとは思いますが、スポーツという枠組みの中では、果たして同じ事が言えるのだろうか。そして、スポーツでも共生を考えないことが、性差別にあたるのだろうか。